

～ 富士見市指定文化財の紹介 ～

打越（おっこし）式土器

指 定	市
種 別	有形文化財
種 類	考古資料
員 数	3点
指定日	平成29年（2017）2月23日
所在地	富士見市大字水子2003-1 水子貝塚資料館内



第55号住居跡出土



第69号住居跡出土



第131号土坑出土

【 概 説 】

打越（おっこし）遺跡は、新河岸川の支流である富士見江川によって形成された支谷に分布する遺跡のひとつで、現在の富士見市立みずほ台小学校を含めた周辺地域に位置しています。これまでの調査で旧石器時代から中世までの遺構が多数確認されています。縄文時代前期の貝塚遺跡として戦前から知られていましたが、昭和47年（1972）からの区画整理事業に伴う発掘調査で、縄文時代早期末の大規模な集落跡であることが確認されました。

打越式土器は縄文時代早期末の土器型式のひとつで、打越遺跡から出土した資料を標識として、昭和53年（1978）に提唱されました。ハイガイやサルボウなどの貝殻の縁を利用して文様をつけ、尖底で砲弾に似た器形を特徴としています。指定された3点の土器は、第55号住居跡・第69号住居跡・第131号土坑から出土した優品です。